

石と一・さくる

No.114

発行 新潟県石仏の会(代表 星野 紀子)

2022年7月20日 発行

事務局 〒945-0837 柏崎市三島町16-2 渡邊三四一 電話0257-22-1941

ホームページ <http://niigata-sekibutu.vox.jp>

中越見学会報告

山里・高柳の石仏を歩く

—道の神・山の神・風の神に出会う旅—

出雲崎町 田 中 文 明

6月3日の朝、柏崎のアルフォーレに集合、総勢23名でこの旅は始まった。

前日の天気予報では、あまり良くなかったが涼やかな朝で澄んだ空気の中をマイクロバスで、一路、山里・高柳へ出発した。

山里・高柳は柏崎市の東方で、現在は柏崎市である。刈羽黒姫山を主峰とした丘陵の中にあり、岡野町を中心とした山村が点在する山間地で、旧高柳町であった。江戸・明治期には、林業、養蚕、織物などが盛んで松之山街道ともつながり交通の要所でもあり栄えた。

バスは田植えが終えたばかりの緑の田んぼの中を曲りくねりながら鯖石川左岸を進み、最初の見学地岡田へと向かった。岡田の双体道祖神は岡田集落に在る十二神社の参道に居られた。その道祖神は小ぶりではあったが、お二人のお姿は優しく穏やかで仲睦まじい。私は引き込まれる様に見入ってしまった。この石仏を作った石工の技量も然ることながら、石仏を求めた願人、それを維持管理してきた里人の心根が解かる。その後、猿田彦大神の石塔など見学、渡邊さんから詳しい説明で不勉強な私にも良く理解できた。

その後、岡野町の貞観園に向かう途中、悪田の石

工源之助の作、一石六地藏(文久年間の作)来世の安寧を願う心がしのばれるその石仏を見学した。(次頁へ続く)



娥眉山下橋標木(貞観園)



一石六地藏(名工・源之助作か)



御幣を持つ双体道祖神(岡田)

貞観園は、岡野町で代々大庄屋を務めた村山家の母屋と庭園で、特に苔の生した庭園は傑作である。現在、庭園は国指定名勝庭園に指定され一般に公開されている。



見学させて頂いた日は、前日に降雨があり、今日は苔が「よいですよ」との館長さんのお話であったが全くその通りであった。庭園は深緑一色幽玄で深遠である。そんなに広いとは思われない敷地は世間隔絶した感がある。この空気感はおんなの様な凡人には表現できない。

この園のもう一つ目玉は、峨眉山下橋杭である。この橋杭は、江戸時代末柏崎の宮川浜に流れ着いた。この杭に刻まれた文字は雄揮で、雄大な大陸を想像させる。これを見た良寛和尚は一篇の漢詩を残した「峨眉山下の橋流れ寄る日本宮川の浜」と。

その後、岡野町から磯之辺の風の神に向かった。磯之辺は刈羽黒姫山の中

腹に在り高地である。バスは細く急な坂道を新緑の眩しい山の尾根を喘ぎながら登る。高度はみるみる上がり、見通しが開ける。将に絶景である。こんな山奥に集落が在るのかと思う。冬には雪が3〜4m積もるだろう。その様な中、山を越えることは不可能に近いだろう。渡邊さんのお話では、冬には麓に下がり、春には、登って来て田畑を耕しているとの事、納得した。尾根を越えると集落が見えてきた。傾斜地に家が点在し、戸数はあまり多くはなかった。所々に廃屋が在り耕作放棄地もあった。集落の奥に十二神社の社があり、その脇に小さな塚の様なところに、多くの石仏や石塔が並んでいた。この村人の信仰心強さが知られる。

しかし、豪雪のため多くは倒れたり、傾いたりしていた。渡邊さんによれば、毎年春来れば、村人が転んだ石仏・石塔を起し、補修を施したが近年その様な村人は少なくなつたと。そこには過疎と云う厳しい現実が垣間見える。その社の裏は黒姫山を眺望できる開けた棚田に出る。これが有名な「梨ノ木棚田」だ。この様な山奥にこんな美田が在るとは、先人の労苦は量りしれない。その入口附近に大きな松の木が在り、その根元に、「風の神」様が鎮座されていた。多分、この「風の神」様は村

人だけではなく、黒姫山の山頂に在る黒姫神社への参拝を願う、小千谷・十日町や魚沼の織物関係の女人たちの信仰をも集めただろう。強風舞う山道を安寧にと願う女人たち、神様の御姿は怒り顔だが何処か優しい。

参拝のための登山路は神様の脇を通っている。近くの黒姫観音堂に参る。本尊は石造の如意輪観音で黒姫山の本地仏と云う。



風の神(磯之辺)の前で



私たちはもと来た坂道を下り、「じよんのび村」で黒姫御膳を頂く。ここの名物は鰻頭である。或る人は、大量に買い込んだ。

午後は漆島十社大神社へ向かう。岡野町から松之山脇街道を南に上り、旧街道の家並を行く。十社大神社は、漆島の裏の小山に在り、境内に多く石仏・石塔や石祠があった。この中で特に有名なものが、石幢六地藏と石祠（宝珠型）で共に市文化財である。石幢六地藏は、燈籠のような型で龕部に六地藏が彫込んである。また、石祠（宝珠型）は、六地藏と同じく燈籠型で塔身が中空で、中に男神・女神の二神が納められていた。これは珍しく私は初めて見た。境内には、小さな石祠が多く在り、奉納した村人たちの心根が知られる。

私たちは、再び街道を上り萩ノ島へ。茅葺き屋根の集落を見学後、門出の和紙の工房に立ち寄る。工房の主人・小林康夫さんの説明を聞く。仙人



風の小林さんの説明には和紙に懸ける情熱が惨み出る。こんな和紙で字を書いたら良い物が出来るだろうと、求め様としたが止めにした。或る人は云うだろう。「字ではなく紙が良いからよ」と、もう少し腕を上げてからにするか。

再び、高遠石工たちが往来したと云う街道を上り、鯖石ダムから街道は外れて女谷村へ。女谷は、米山の東方裏側にあたる。綾子舞伝承の地である。綾子舞は、伝承に依れば、一説に一五〇九年、越後守護上杉房能が松之山水で討たれた際、房能の妻綾子が女谷に逃れて、綾子舞を伝えた。舞は出雲のお国の流れを汲む室町時代初期歌舞伎の風を受継ぐ。この優雅な舞は五〇〇年もの長きに亘り伝承してきた里人の熱意で、今も私たちが見る事が出来る。この資料や映像を公開する伝承の里綾子舞会館を見学した。案内をして頂いた渡邊さんの娘さんもこの舞の舞手であったとのこと。この会館の見学を終えて帰路に就き、15時過ぎ、無事に柏崎に着いた。今日一日、楽しく心豊かな刻は終わった。

案内をして頂いた渡邊さん、伊比さん、この見学会を計画実行された皆様に感謝、感謝、それに、バスの運転手の方にも。

道の神、山の神、風の神 合掌



綾子舞会館見学(女谷)



十社大神社の石仏群(漆島)

事務局だより

◆上越地区見学会のお知らせ

期日 9月1日(木)

テーマ 糸魚川・延喜古道の石仏と山寺の延年
集合 10時45分 糸魚川歴史民俗資料館
(相馬御風記念館)前(☎025・552・7471)
(糸魚川市役所前・東寄り駐車場)

見学地

①蓮台寺／七社大神(五百羅漢、庚申塚、境界石ほか)②水保／観音堂(木造十一観音像、地藏菩薩ほか)③羽生(双体道祖神・不動明王・馬頭観音ほか)④山寺／金蔵院(中世板碑ほか)、観音堂(子安地藏、青面金剛像ほか)、日吉神社(おててこ舞鑑賞予定)⑤フォッサマグナ・パーク
昼食 漁師直営店「魚祭(うおさい)」(刺身・エビが不都合な方は要連絡)

解散

16時(集合場所帰着)

参加費

5000円(資料・昼食・バス代等)

定員

20名(コロナ対策お願いします)

締切

8月15日(月)※先着順

申込み

栗間啓志まで(携帯電話かEメールで)

電話 090・7803・2428

Eメール white-angel-wings.1405

@docomo.ne.jp

◆下越・新潟地区見学会のご案内

日時 10月14日(金)9時～16時

テーマ 新潟市南区・旧白根市周辺の歴史と

石仏を訪ねて

集合

①新潟駅南口バスロータリー9時出発
②しろね大風と歴史の館前駐車場

9時30分出発(解散場所も同じ)

見学地

東福寺、戸頭道祖神、白根神社、笹川邸、月潟の角兵衛獅子地蔵、庄瀬の虫神社ほか(昼食・割烹「瑞雪楼」)

参加費

5000円(昼食・バス代等)

定員

20名(コロナ対策お願いします)

締切

9月30日(金)

申込み

堀内正子まで(希望・問合せも含む)

電話 025・243・7640

携帯 090・6009・4682

◆日帰り有志見学会のお知らせ

別紙のとおり9月16日(金)に計画しました。

ご参加お待ちします。

◆令和4年度総会を開催しました

5月22日(日)、長岡市民協働センターにおいて今年度総会が開催されました。以下、概要を報告します。参加23名。

第一部(午後1時～)は講師急病のため渡邊三四一氏が「新潟県の双体道祖神を読むー井上光威氏撮影の精細画像を手がかりにー」と題し、県内の双体道祖神の多様性や地域性について講演されました。

第二部(午後2時40分～)の総会では、上越事務局のやまだ漫步氏が退任し栗間啓志氏に、

会計監査は荒井昭氏が退任し岩野笙子氏に変更報告があり、他のすべての議案が承認されました。また今年度から「家族会員」(家族2名で年会費5000円)を新設しました。詳細は同封資料を参照下さい。

◆会員の出版物

鈴木悟司氏(村上市)と高橋正明氏(湯沢町)の二人が次の書籍を刊行されました。注文・問合せは直接ご本人へ。



石彫創作家
鈴木悟司作品写真集
『祈 大地と共に』
A5判、26頁(カラー)
頒布 1,350円
(送料別)



高橋正明著
『湯沢の昔を辿るー
石仏と史跡の記録』
A5判、95頁
頒布 1,000円
(送料別)

◆新年度会費納入のお願い

本年(令和4)度の会費納入の振込用紙を同封しました。早目にお振込願います。

本号編集担当 中越地区事務局